

令和2年度 施策評価シート

まちづくりの目標	4	美しい自然と環境を大切にす源流のまち
施策目標	2	【低炭素社会】地球環境にやさしい社会と暮らしを育てよう
施策の展開	① ②	自然エネルギーの利用促進 低炭素社会の実現

施策担当課	環境課
関係課	環境課

1 施策の現状・推移

5年後のまちの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・景観との調和を図りながら、森林資源などの自然エネルギー源を活用し、自立・分散型エネルギーの普及と地産地消が進んでいます。 ・本市の豊かな自然から得られたエネルギーが日常生活や産業に活用され、低炭素社会が実現しています。
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 成果指標・コストの推移

		単位	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
成果指標	住んでいる地域が、木質バイオマスなどの自然エネルギーの活用が以前よりも進んでいると思う市民の割合	%	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
			実績	17.2	21.8					市民アンケート結果より
	木の駅プロジェクトに参加した兼業農林家数(累計)	人	目標	100	175	175	175	175	175	
			実績	146	174					
市内の太陽光発電の設置件数(累計)	件	目標	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200		
		実績	3,112	3,193						
自然の動植物などの保全に関心がある市民の割合	%	目標	—	—	60.0	70.0	70.0	70.0		
		実績	—	49.3					市民アンケート結果より	
コスト	人件費	千円	実績	24,050	24,245	24,245	24,245	24,245	24,245	
	事業費	千円	実績	16,175	17,375	23,669	23,669	23,669	23,669	
	計	千円	実績	40,225	41,620	47,914	47,914	47,914	47,914	
	うち一般財源	千円	実績	33,213	35,382	42,219	42,219	42,219	42,219	

※評価年度は実績、計画年度は予算

3 環境変化

国・県の方針、関連法令の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年に国連が提唱した「持続可能な開発目標(SDGs)」は、気候変動や地球温暖化対策だけではなくとどまらない包括的な目標を定め、世界各国が共通して取り組むべきこととして受け入れられている。 ・平成30年に策定された国の第五次環境基本計画では、「地域循環共生圏」を提唱。地域資源を持続可能な形で活用するため、各地域が自立・分散型の社会を形成し、地域資源等を補完し支え合う「地域循環共生圏」の創造を目指している。 ・令和2年10月に菅内閣総理大臣が、所信表明において「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」と宣言し、環境省では、地方自治体のゼロカーボンシティ宣言とその具体的な取組を呼び掛け、制度的に後押しする体制を整えている。
市民ニーズの動向	第2次環境基本計画策定の際に実施した市民アンケートでは、地球温暖化問題について、「よく知っている」、「聞いたことがある」を合わせると、95%に達している。また、年齢別に見ても「よく知っている」、「聞いたことがある」を合わせた割合は、どの年齢でも90%以上と、関心の高さがうかがえる。具体的な取り組みとしては、「節電」(91.0%)、「クールビズ・ウォームビズ」(41.8%)が大半を占めている。次いで、「太陽光や太陽熱の設備導入」(22.8%)、「自動車の相乗り、公共交通機関の利用」(13.8%)となっている。

4 評価

目標の達成状況は順調か。達成していない原因は何か。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度市民意識アンケートの結果によると、自然エネルギーの活用が進んでいると思う市民の割合は、前年度比で4ポイント程度増加しているが、平成28年度比では18ポイント減少している。太陽光発電設備は増加しているが、自然エネルギー全体としての関心は低い。 ・薪(木質バイオマスエネルギー)の利用促進については、広報等により住宅の新築やリフォームの際に薪ストーブ・薪ボイラー設置補助金の活用を呼びかけているが、薪ストーブ本体の価格や設置に要する費用が高価であるため、伸び悩んでいる。 ・丹波市の「木の駅プロジェクト」に参加された新規兼業農林家数は、地域おこし協力隊の積極的な活動により年々増加している。
環境変化を踏まえた施策展開となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から10年間の環境の保全と創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための第2次環境基本計画の策定を行った。令和3年度には、同計画の中間年を迎え、自然環境や社会経済情勢の変化に合わせて見直しを進める。生物多様性の保全や地球温暖化防止に向けた事業の検討を始めている。 ・太陽光発電や太陽熱利用、木質バイオマスエネルギーの推進は、自然エネルギーの利活用に適している。 ・木質バイオマスエネルギーの活用に向け、丹波市木の駅プロジェクトの取組を支援して、同プロジェクトの木の駅実行委員会の活動が広く市民に知れわたり、活動の輪が広がるように連携する。地産地消による脱炭素に向けた循環型社会の実現につながるため、地域おこし協力隊との協働や薪ストーブ、薪ボイラーの導入促進を図る。
事業の構成や役割分担で見直しの余地はないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、事業所、市が一体となり、それぞれの立場から参画と協働の取組を行うことを基本として施策を実施する。 ・施策の実施については、国、県補助金や民間の助成金を積極的に活用することで、市の負担軽減を図る。

5 今後の改革方向

施策の今後の方向性、構成する事務事業の見直し案	<ul style="list-style-type: none"> ・社会経済情勢が激しく変化する中で、SDGs、パリ協定、生物多様性保全、地域循環共生圏、脱炭素等のキーワードが環境施策を進める上で重要となる。それらを地域に合わせ、地域資源を活用した施策が必要となる。 ・自然エネルギー(太陽光・熱や木質バイオマス)の推進や環境保全については、関係する各部署との連携を図りながら取組を進める。 ・市民や事業者を対象に、地球温暖化防止や家計等見直しのため、省エネ活動を進めていけるように、情報提供や行動を後押しする「Cool Choice」運動を普及啓発する。また、生物多様性保全の一環として、「氷上回廊」を活用した取組を検討する。
-------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

丹波市総合計画 令和 2 年度事務事業評価 / 令和 3 年度実施計画

事務事業名 環境施策推進事業
事業担当課 生活環境部 環境課
事業期間 平成 16 ~ 無期 年度
所属長 田口 健吾 担当 荻野 誠

位置づけ
総合計画 まちづくり目標 【4】美しい自然と環境を大切にす源流のまち
創生総合戦略 基本目標 【4】好循環で元気なまちをつくる
まちづくりビジョン 取組項目 (8)地域に根ざした生業
根拠法令・個別計画等 丹波市環境基本条例、第2次丹波市環境基本計画、丹波市地域新エネルギービジョン

計画 (PLAN)
対象 (誰を、何を) 市民、自治会、事業所
目的 ベストな状態 (期待される効果)
概要 (具体的手段・全体計画)
令和2年度の事業概略
令和3年度の事業概略

コスト (単位:千円)
(評価年度は実績、計画年度は予算)
歳出
歳入
指標名
単位
目標実績
令和元年度 令和2年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度 令和6年度 備考

実施 (DO)
指標の推移等の背景・分析
・令和2年度の市民意識アンケートの項目として、自然の動植物などの保全に関心がある市民の割合が加わった。今後、生物多様性保全を推進していく上での指標とする。
・自然エネルギーの活用が進んでいると思う市民の割合は、微増である。太陽光発電施設は増えているものの市民の割合が低く、木質バイオマスエネルギーの利活用に対する関心の低いことが原因と思われる。木質バイオマスエネルギーとして利用する薪等の利用促進を進める。
・木の駅プロジェクトの参加者数について、同実行委員会の活動や地域おこし協力隊の働きかけにより、増加につながっていると思われる。

事務事業名	環境施策推進事業				
事業担当課	生活環境部 環境課	事業期間	平成 16 ~	無期	年度

事務事業全体の実施 (DO) に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
		(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	環境施策推進事業及び新・省エネルギー普及事業は、市内における豊かな自然環境の保全と地球温暖化防止活動の推進、新エネルギーの導入と省エネルギーの啓発等を目的に、市民が住みやすい環境とより良い生活環境を守り、持続可能な地域社会の創造に必要な事業である。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	A
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価		B	・市民意識アンケート結果において、自然エネルギーの活用に対する市民認識が低く、普及啓発を進めていく必要がある。木の駅プロジェクトの広がりとともに、木質バイオマスエネルギー（薪）の利活用が進められるよう取り組む。 ・生物多様性保全や脱炭素社会の実現に向けた新たな取組を検討・推進していく必要がある。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	該当なし	

総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）																																							
改革 (ACTION)	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性や自然環境の保全について、市内関係部署や保全団体と連携を図り、地域の資源として、保全や活用を進めていく。 ・自然エネルギーの推進について、地球温暖化防止対策も相まって、脱炭素社会の実現を目指した取組を行う必要がある。また、自然エネルギーのなかでも木質バイオマスエネルギーを利活用し、地産地消による循環型社会を実現するための、薪ストーブ・薪ボイラーの導入を進めていく。 ・「生物多様性」「木質バイオマスエネルギー」といったキーワードと併せて、それに関連する具体的な活動として、「氷上回廊」「木の駅プロジェクト」も広く市民の方に知らせていく。 ・市民や事業者が、地球温暖化防止や家計等見直しのため、省エネ活動を進めていけるように、情報提供や行動を後押しする「CoolChoice」運動を普及啓発する。 																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">今後の方向性・改善策等</th> <th colspan="4">成果・コストの方向性</th> </tr> <tr> <th>皆減</th> <th>縮小</th> <th>現状維持</th> <th>拡大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4"> <ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全と創造に関する施策を総合的、かつ計画的に推進するため、第2次環境基本計画に基づき事業を展開していく。また、令和3年度には、計画の中間見直しを行う。 ・「氷上回廊」や市内の珍しい動植物がいることを広報等をとおして知らせていくことで、「生物多様性」を市民の方に知っていただき、自然の動植物の保全に対する関心を高める。 ・自然エネルギーについては、引き続き、木質バイオマスエネルギーの利活用を進め、林地残材を加工した薪を使い、化石燃料からの転換を図ることで、地産地消による循環型社会を実現するために、薪ストーブ・薪ボイラーの導入を増やす取組を進める。 </td> <td>成果の方向性</td> <td>拡大</td> <td>✓</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">コスト投入の方向性</td> </tr> </tbody> </table>	今後の方向性・改善策等	成果・コストの方向性				皆減	縮小	現状維持	拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全と創造に関する施策を総合的、かつ計画的に推進するため、第2次環境基本計画に基づき事業を展開していく。また、令和3年度には、計画の中間見直しを行う。 ・「氷上回廊」や市内の珍しい動植物がいることを広報等をとおして知らせていくことで、「生物多様性」を市民の方に知っていただき、自然の動植物の保全に対する関心を高める。 ・自然エネルギーについては、引き続き、木質バイオマスエネルギーの利活用を進め、林地残材を加工した薪を使い、化石燃料からの転換を図ることで、地産地消による循環型社会を実現するために、薪ストーブ・薪ボイラーの導入を増やす取組を進める。 	成果の方向性	拡大	✓				現状維持						縮小						休廃止						コスト投入の方向性			
今後の方向性・改善策等	成果・コストの方向性																																						
	皆減	縮小	現状維持	拡大																																			
<ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全と創造に関する施策を総合的、かつ計画的に推進するため、第2次環境基本計画に基づき事業を展開していく。また、令和3年度には、計画の中間見直しを行う。 ・「氷上回廊」や市内の珍しい動植物がいることを広報等をとおして知らせていくことで、「生物多様性」を市民の方に知っていただき、自然の動植物の保全に対する関心を高める。 ・自然エネルギーについては、引き続き、木質バイオマスエネルギーの利活用を進め、林地残材を加工した薪を使い、化石燃料からの転換を図ることで、地産地消による循環型社会を実現するために、薪ストーブ・薪ボイラーの導入を増やす取組を進める。 	成果の方向性	拡大	✓																																				
	現状維持																																						
	縮小																																						
	休廃止																																						
コスト投入の方向性																																							

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	環境施策推進事業	2,493	8,583	8,583	8,583	8,583	
2	新・省エネルギー普及事業	14,882	15,086	15,086	15,086	15,086	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
合計		17,375	23,669	23,669	23,669	23,669	